



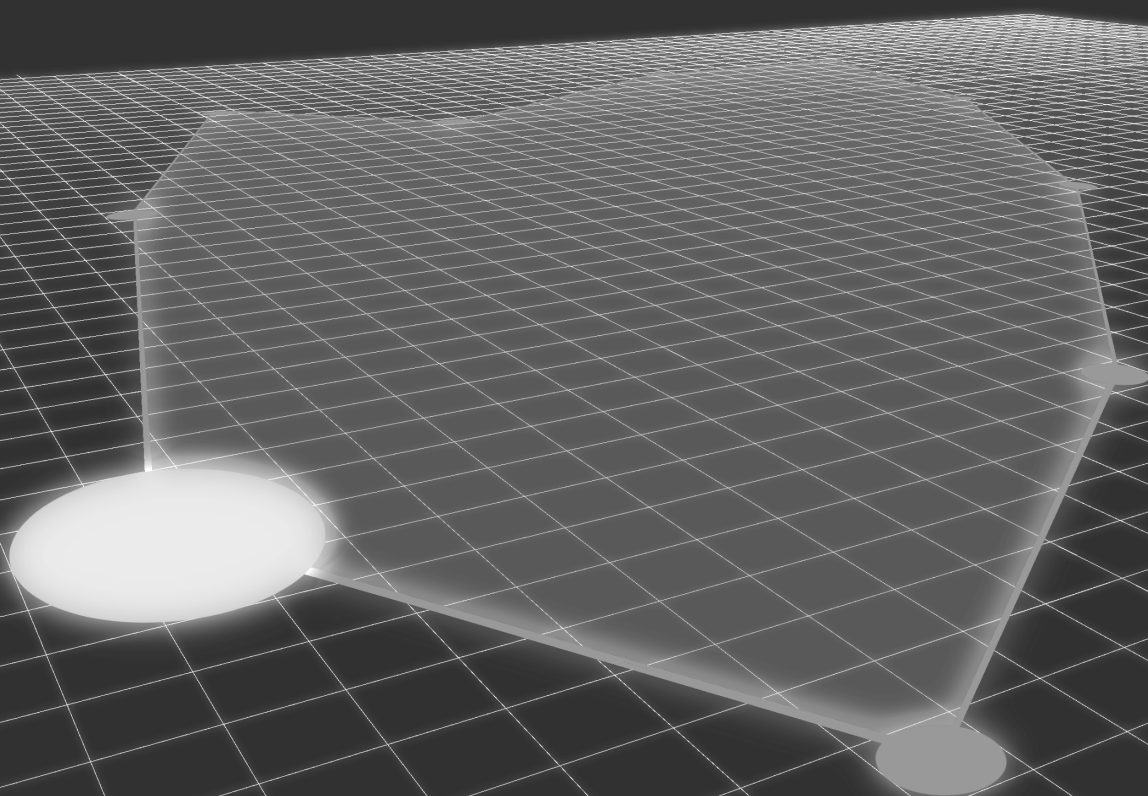
DAY LIGHT 2

第16アースポッド「ユークニクス」

面積 12,425.28km²

総人口 1,511,532人

人口密度 121.649人/km²



DAYLIGHT



環境省 カフェにて

イヴ・アードベッグとリリオ・ラガヴァーリンは、先日の襲撃事件について話し合っていた。

休憩時間をずらしたため、他に席に着いている職員はいなかった。

リリオが口を開く。

「結局あの一件は、不審物の爆発事件として報道されていたね。」

「あそこはアースポッド完成前からの古い施設でしたし、山奥という立地からして、

たまに地域住民のレクリエーションに使われている

程度でしたので、気にする人も少なかったのでしょうか。」

「しかしそのような場所を襲う理由は

まったく見当がつかないね……、

加えて連中は私たちとおなじ超能力持ちなんだろう？

出自についても早急に調べる必要があるんじゃないか？」

「ええ、遺伝子強化技術については外部公開されていませんから、

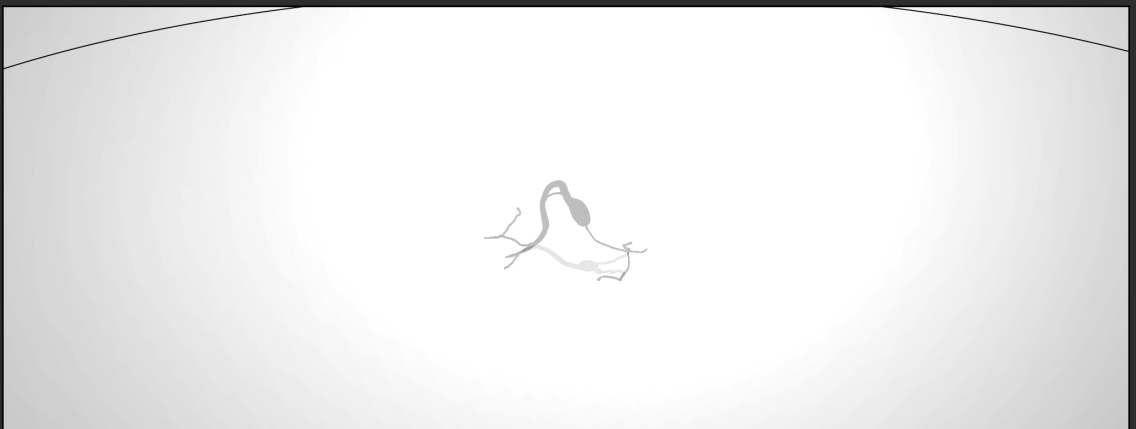
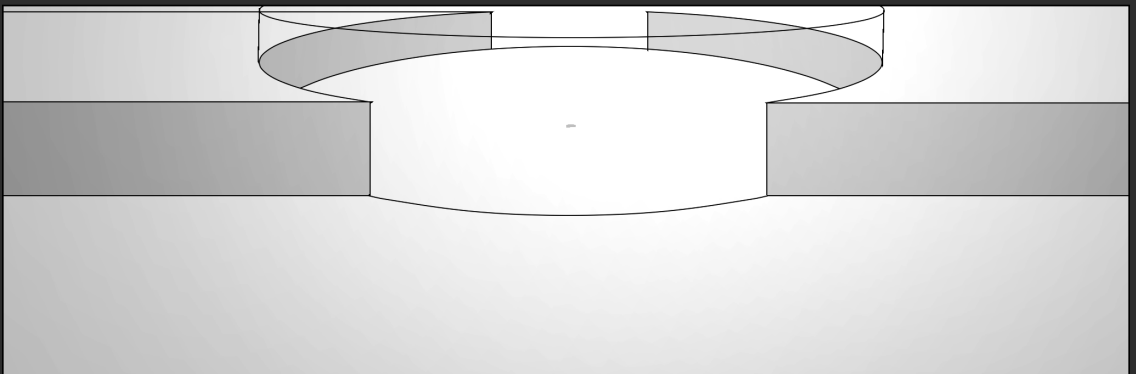
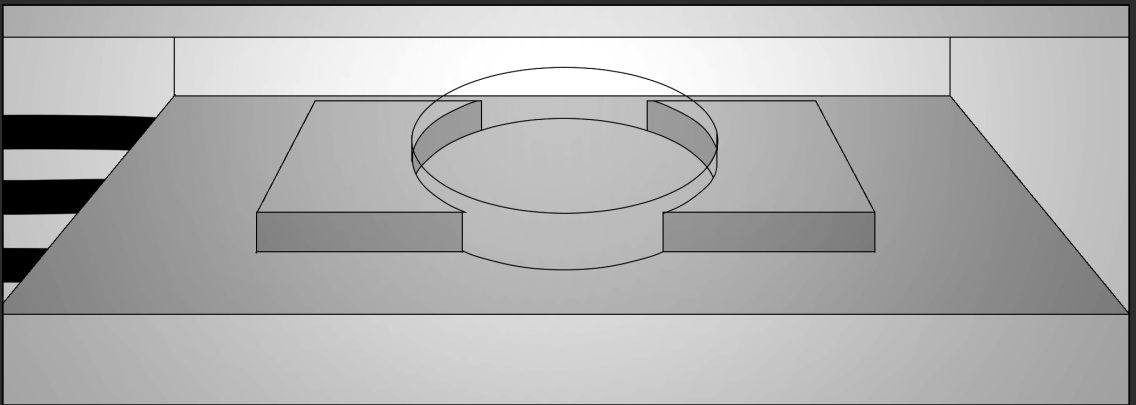
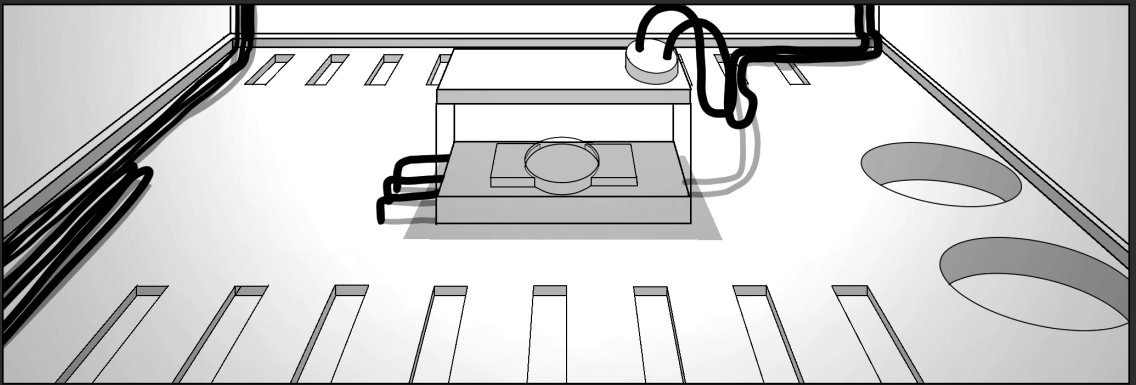
内通者の存在まで視野に入れる必要が出てきますね」

「……正直なところ、心当たりがないこともないけど」

「それはどういった内容で？」

「話すなよ？」

「話しませんよ」



「OK、私たちスレイプニールの構成員は最年長でも28歳だね？
ヴィンガレッジがそうなんだけれども。」

で、人造人間プロジェクトについては47年前…、
急激な大気汚染と気温上昇が始まったと同時に発足しているんだ」

「技術の成熟に19年かかっただけでは？」

「その可能性もある、…ただ、第一子のヴィンガレッジを始め、
私たちの体にはかなり無理のある遺伝子改造の割に、
副作用がほとんどないのは不思議だと思う。」

いきなり完璧な成果が生まれたのか？一切の過程なしに？」

「…彼女は私たちの先輩で、失敗作だったため闇に葬られたと？」

「まあ、ほぼ憶測で話しているし、そこに焦点を絞るつもりもないけれども」

「いや…まさか…、そもそも私と同じくらいの年でしたよ」

「外見を操れる可能性もあるでしょう。」

おっと、そろそろ仕事に戻らないとまずいね…、

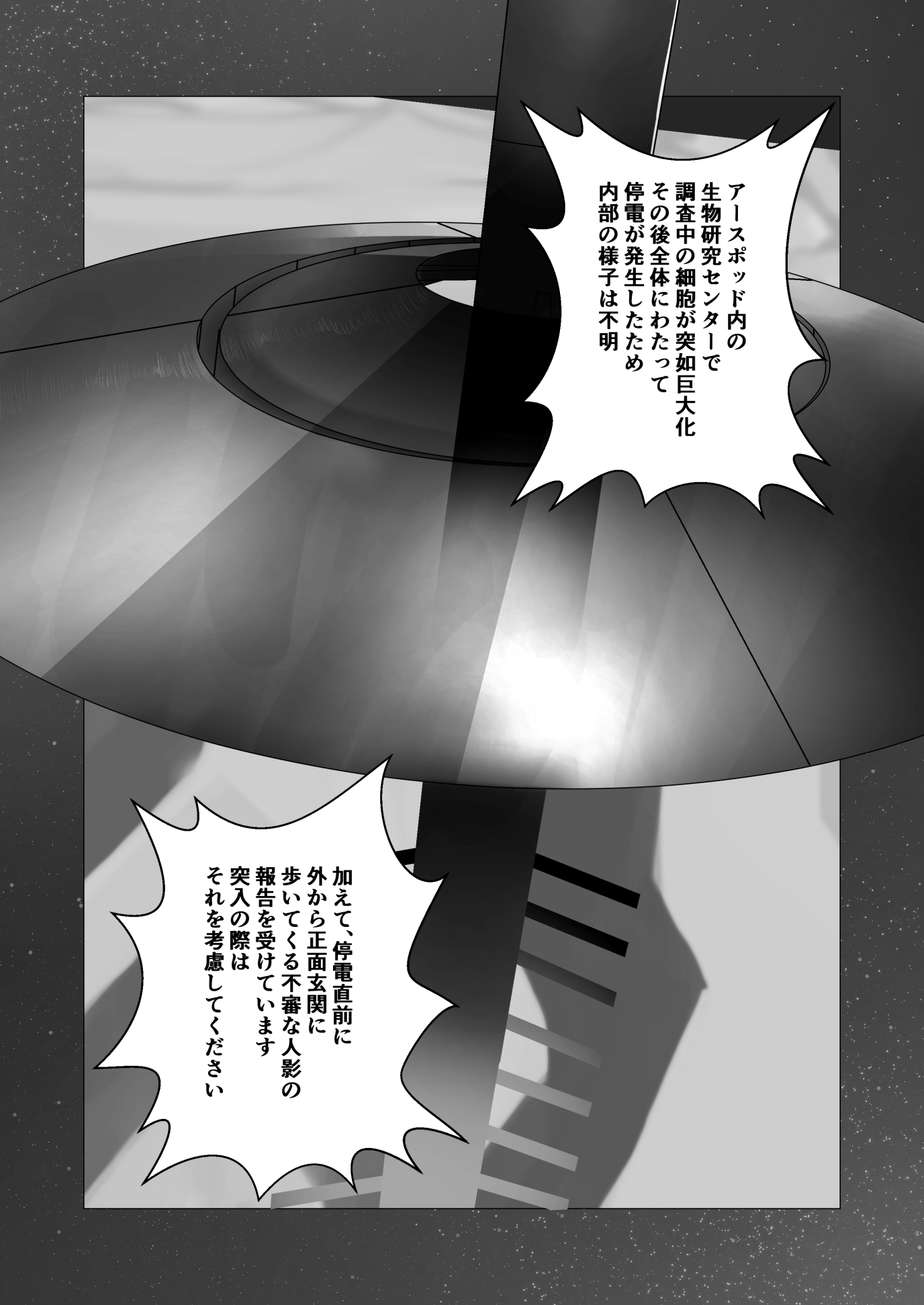
また今度ゆっくり話そう」

「そうですね…、

ちょうど今頃、アースポッド内の研究所で

彼女の残骸を調べているはずですから、

まずはその結果を聞いてからにしましょう」



アースポッド内の
生物研究センターで
調査中の細胞が突如巨大化
その後全体にわたって
停電が発生したため
内部の様子は不明

加えて、停電直前に
外から正面玄関に
歩いてくる不審な人影の
報告を受けています
突入の際は
それを考慮してください

こちら
ウェインガレッジ
各員の状況を
確認する

ウェインから
教えてくれ

「スレイプニール」
ヴァインガレッジ・キルホーマン

今、ロビーに
入ったところだ
セピアも一緒にいる

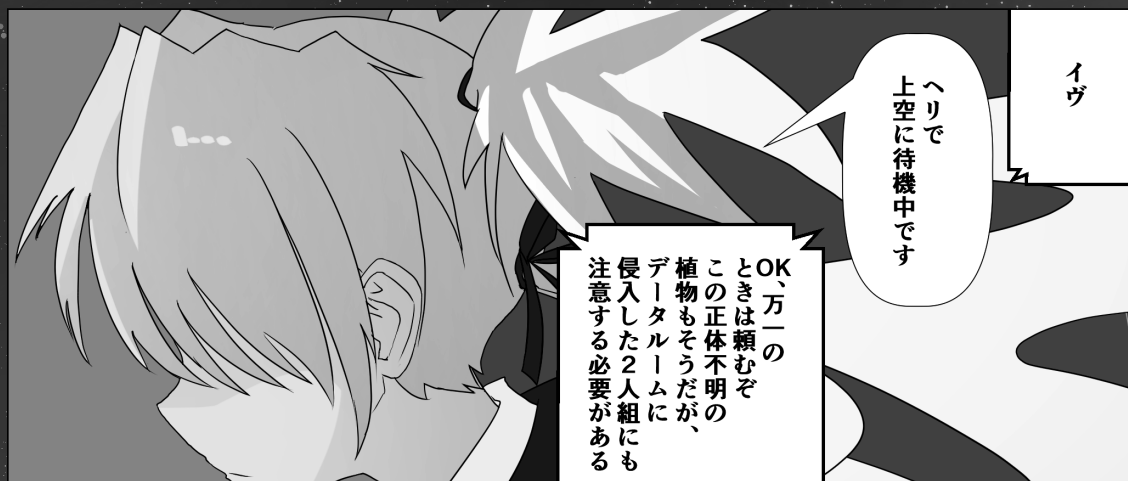
職員の様子は
見当たらないな

ウェイン・ラフロイグ

セピア・オクトモア

代わりに
見たこともない
植物が
フロア中に
根を張っているぞ

気体検査の結果は
特に異常はなかったから
このまま進むつもりだ
目的は21階のデータルーム
侵入者の拘束
場合によっては殺害で良いな？



任せてください

...

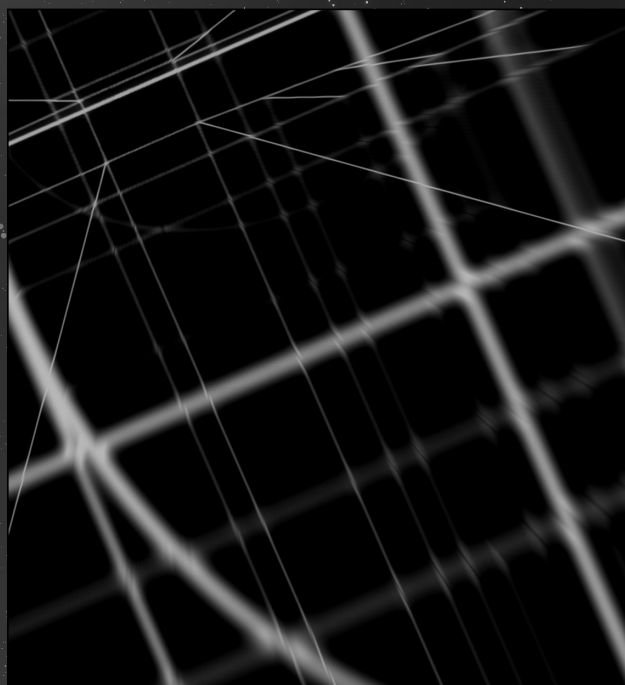
彼女が
何者であろうと
今は関係ない
私は私の出来ることを...

植物を操る少女は
殺人を楽しんでいた
それは今の地球に
あってはならない感情だった
更にはこうして
アースポッドまでも...

彼女の存在に
強い憎悪を覚える...
同じ人造人間だから
だろうか？

いづれ
この幕は
閉じなければならぬ
世界の均衡が
崩れる前に

イヴ・アードベッグ





あっ…
跳ぶ前に
ひとつだけ

仕事が終わったら
「チェリー・ブロッサム・パフェ」
一緒に食べにいき？

終わってから
言え

ここからは
真面目に
頼むぜ

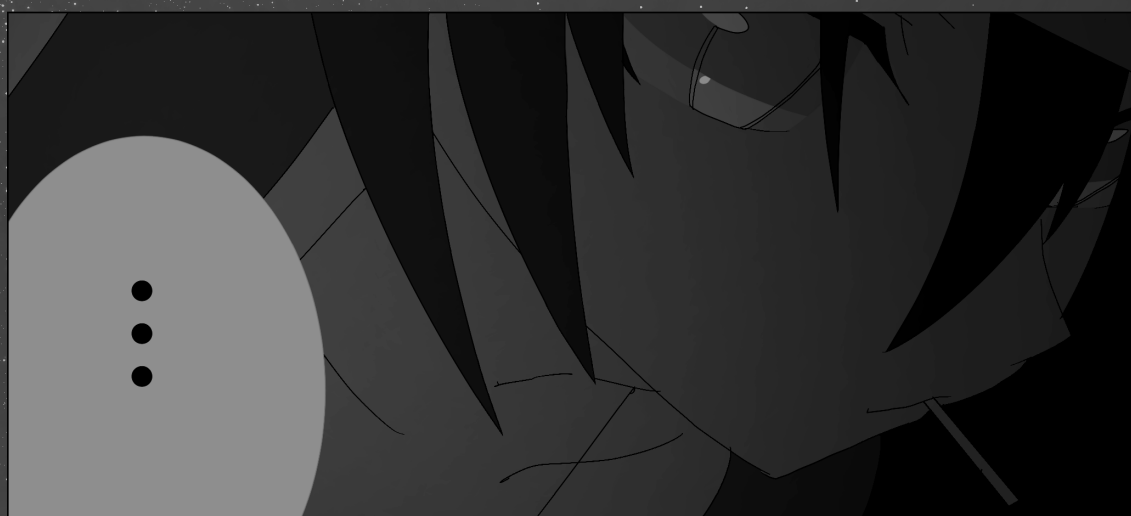
掴まっつろよ！

にゃんにゃん



行くぜ！



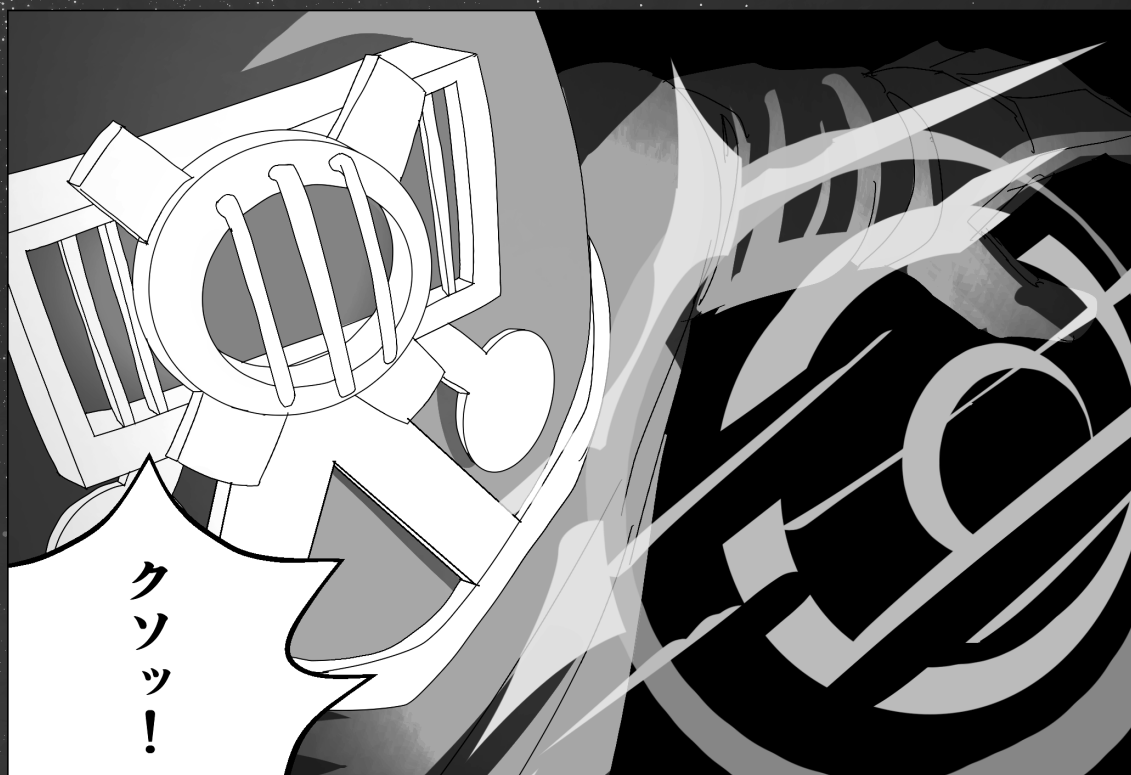






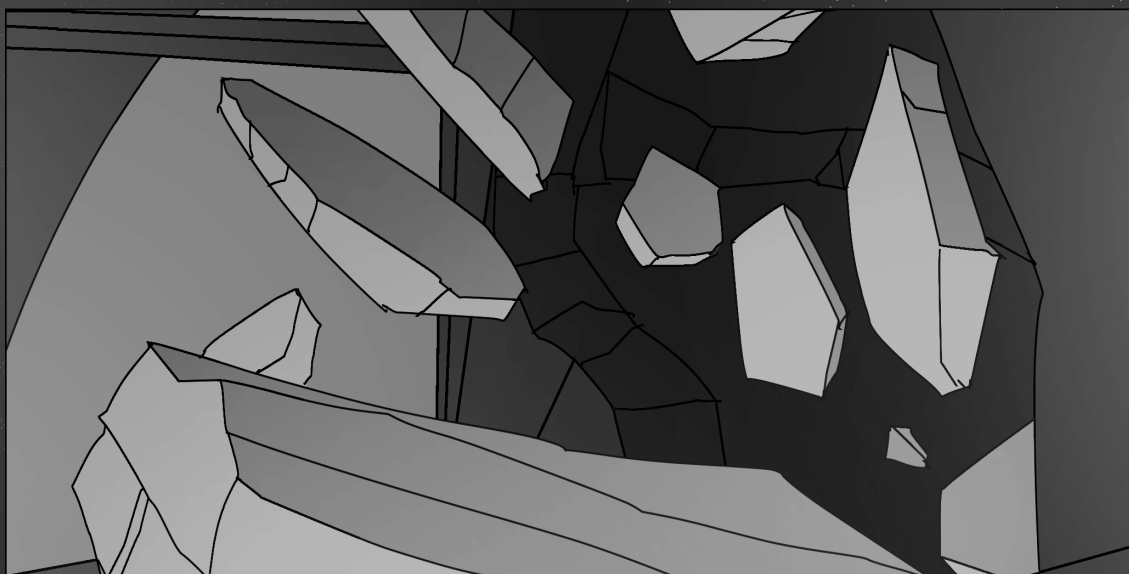














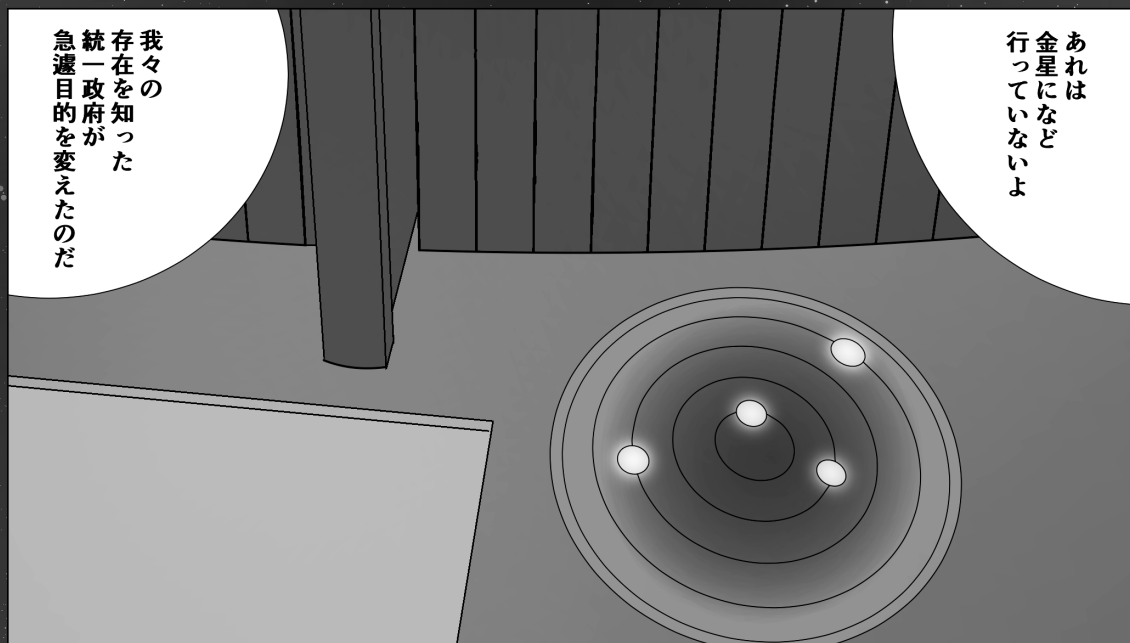


話を
聴け



ゾーイ・
ブナハーヴン

君は
先日旅立った
探査機
「ジャンパー」を
覚えているか？



あれは
金星などに
行っていないよ

我々の
存在を知った
統一政府が
急遽目的を変えたのだ

水星

ほとんどが金属で
出来たこの星は
我々の
目指す場所でも
ある



単独で
地球の重力圏を
脱出できる
素晴らしい船さ

今は
博物館に
展示されて
いるけれども

縮退炉を
利用して飛ぶから
今すぐにでも……

このパッケージは
2年前に
開発された
宇宙船の
オートマチック・ドライバ





どいつも
こいつも
話の途中に…



素晴らしい正義感だね、アードベッグ

ただ、思考停止のまま
動くのは良くないな

どちらが正しいかなどと
講釈垂れるつもりはないが



我々は感情に頼って
こうしているわけではないよ

全員が能力者か
やはりリリオさんの
言う通りなのか…?



ミュー
そろそろ行こう



っ……!

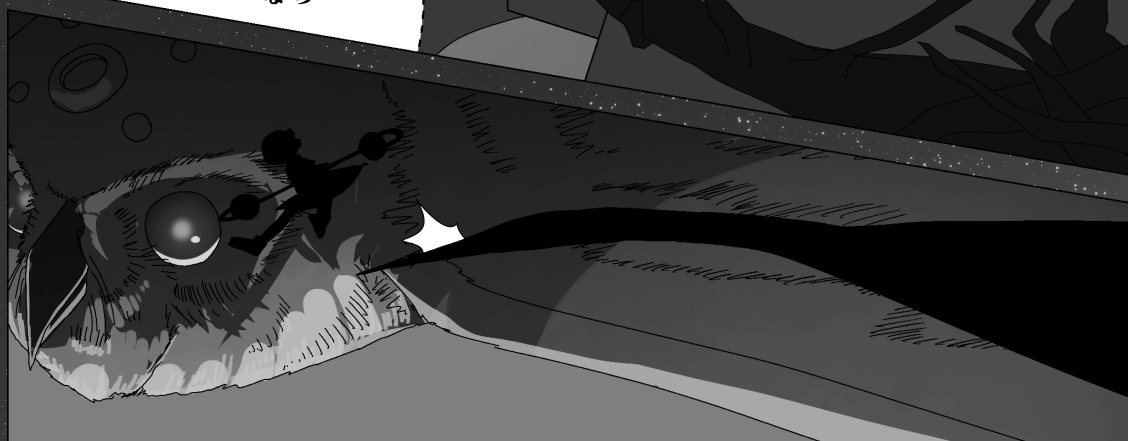


あっ



随分成長したね
電力の食いすぎ
なんじゃないか、え？
この前も君が電力設備を
壊したおかげで
ほとんど
見えなかったんだぜ

育ち盛りだから
許して欲しいな
とりあえず
私は別の体で
一足先に
向かうよ





追ってこい
アードベッグ

私なら
君の望むものを
与えられる

君は
全てを
知る必要がある

世界が
暗闇に沈む
その前に…

サークル名：でべろっぱーず
執筆者：長そで
mail : corknix@gmail.com
Twitter : hansodenagasode
発行日：2017/5/6
印刷：オレンジ工房.com 様

